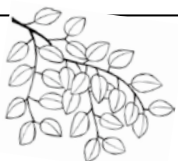


特定非営利活動法人



港南たすけあい心

会報 No.60

発行年月日 2016.2.26

発行責任者 阿部潤子

横浜市港南区野庭町

610-2-202

TEL 045-844-6858

FAX 045-844-6857

子どもたちのための餅つき大会2

阿部潤子

利用者交流会開催3

目次

医療的研修を生かして質の高い介護を提供しよう!!4・5

研修班

港南たすけあい心の活動6

新会員紹介／ここだより7

港南たすけあい心の活動状況／編集後記8



子どものための餅つき大会

野庭シヨッピンングセンター活性化イベント

代表 阿部潤子

港南たすけあい心の活動に、いつもご理解とご支援をいただきありがとうございます。

私たちは、訪問ヘルパー事業所として現在約150名の方の支援を行っています。この事業の他に、創立当初から地域支援の様々な活動にも参加しています。先日野庭シヨッピンングセン

ター活性化イベントの一つとして、子どものための餅つき大会をお手伝いしました。このイベントは、

平成26年度から3年計画で始まった「商店街丸ごと再生支援事業」の第1弾として行われました。



横浜市経済局商業振興課と野庭シヨッピンングセンター商店会が一緒に毎月一回勉強会を重ねてきました。昨年夏には地域住民2856世帯にアンケートを行い、有効回答696という高い関心が伺える結果となりました。

地域住民から商店街に多くのアイデアや期待が寄せられました。高齢化著しい大規模団地ですが、住民構成を調べると子育て世代も少なくないということが分かり、若い世代が楽しめるイ



ベントとして、餅つき大会が計画されました。1月24日寒い1日でしたがお天気に恵まれ、第一自治会の餅つき隊に指導してもらいながら商店会会員が慣れない手つきで餅つきを行いました。

ふたを開けてみると、子ども用に用意した100パックのつきたて餅が無くなる盛況ぶりでした。野庭団地の賑わいづくり、住民にとって利用しやすい楽しい地域の商店街を目標に私たちも一役買っただけだと思えます。

冬の晴れた1日、日ごろ閑散としたシヨッピンングセンターにこの日は、多世代の人々が三々五々集まり自然に交流が生まれる様子は、これからのまちづくりの目指す方向を見たような気がしました。



▲子どもたちも餅つき

利用者交流会開催 12月5日

声出そう 今年は歌パーティー

毎年恒例の利用者交流会を行いました。お天気に恵まれ、ご利用者様13名が参加してくださいました。メンバー12名と一緒に歌と食事を楽しみました。

港南区在住のシンガーソングライター・佐藤潤さんのミニコンサートのほか、ギターの伴奏で「ふるさと」「上を向いて歩こう」など誰もが口ずさめる歌と一緒に歌いました。

ランチは軟らかく煮た牛肉がごろんと入ったビーフシチューとバターライスとサモサです。デザートは佐藤潤さんお手製のチーズケーキでした。

メンバーは日頃は利用者様と一緒にご飯を食べることはできませんが、この日ばかりはおしゃべりをしながら楽しいひと時を過ごすことができました。



▲前夜から煮込んだシチューに舌鼓



▲佐藤さんは第二・第三火曜日に「ここ」でカレーとチーズケーキの店を開いています。



▲歌った後はご飯がおいしい



▲なんと お二人とも海の男

医療研修

医療的研修を生かして

質の高い介護を提供しよう!!

近年、様々な医療機器を利用しながら在宅で過ごす方が増えています。入院の短期間化、医療機器の改良、また患者ご自身も在宅での生活を望んでいることなどがその理由でしょう。

在宅で、支援を行う私たちワーカーは、ご利用者の安心のためにも様々な医療的な知識を学んでおきたいと思えます。

医療研修

【1】呼吸器に障害を持つ 利用者のサポート

●講師：

☆済生会南部訪問看護ステーション

安西千代美看護師

☆守屋酸素商会

高橋直人様



▲安西看護師

1、酸素療法が必要になる病気
慢性呼吸不全

①慢性閉塞性肺疾患（原因の90%は喫煙）

②肺結核後の後遺症

③肺線維症（間質性肺炎が進行し線維化する）等

2、酸素を利用している

利用者支援



▲酸素療法機器の取り扱いを学ぶメンバー。左は講師の高橋さん

①生活援助：ボンベやチューブに引つかからない環境整備

炭水化物に偏らない栄養（たんぱく質・ビタミン・脂質など）を大切にする食事作り

②身体援助・・・洗髪・洗面など両手をあげる動作が辛いので介助が必要

③発作時の対応・・・慌てないで落ち着いて声をかける。背中にはさすらない。肩や背中に手を置くだけでよい。酸素量を勝手に上げない。マスクをつけない等

医療研修

【Ⅱ】排尿に障害を持つ 利用者のサポート

●講師：

☆済生会南部訪問看護ステーション

櫻木優子看護師

1、尿バッグを利用する病氣

①萎縮膀胱（必須）

②尿閉状態・排尿後残尿多で自己導尿できない人（必須ではない）

③夜間睡眠障害・尿失禁による皮膚障害・家族の負担軽減など



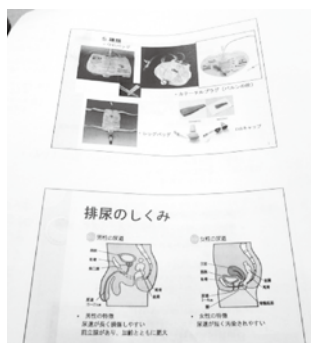
▲櫻木看護師 自作の尿導模型を使ってカテーテルの挿入方法を説明

2、尿バッグ利用者支援で

気を付けること

①尿漏れ・陰部、腹部の痛み・尿量、バッグの損傷など

②陰部洗浄・尿の廃棄・カテーテルの固定（引っ張らない。バッグを腹部より下にする。尿廃棄口のロックを忘れない）



◀▼尿バッグのバルンの仕組みを真剣に学ぶメンバー



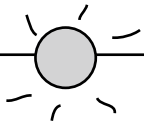
さて、ここからが私たちの本領発揮です。

私たちは介護の専門職です。知識を学ぶことで終わりにせず、ご利用者の心身の不安、移動の不便などを考慮し、安心していただける声かけ、移動の介助方法、疾患にあった食事作りなどに学んだことを生かしていきたいものです。

研修班は今後も日常の支援に役立つような研修を考えていきたいと思えます。
(2016年2月 研修班)

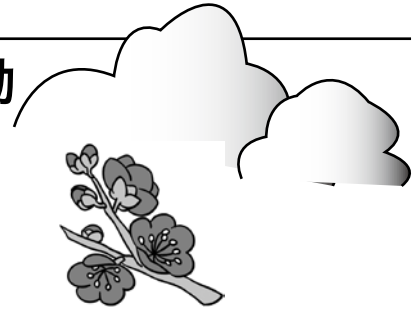


▲尿バッグを実際に手に取りながら取り扱いを学びました



港南たすけあい心の活動

(2015年3月～2016年2月)



VIVA まちづくり

2016年1月16日(土)

住みよい地域づくりをめざして9団体が協力しています。いつもは代表者が集まって話し合っていますが年に1回は大勢と一緒に食事つきの勉強会をします。今年は「ケアプラザは何をしているところなの」をテーマに野庭地域ケアプラザの職員さんに話していただきました。その後、認知症サポーター講座を受講しました。



認知症サポーター講座の寸劇「ご飯まだ食べてないよ」

活動紹介展

(港南区民活動支援センター主催)

2016年1月29日(金)・30日(土)

港南区で活動する団体が活動の内容をパネルにして紹介しあう催しに参加しました。ウイリング上大岡2階で23団体がパネルを並べました。通りがかりの人から質問を受けたりして、外に向けてアピールすることの大切さを感じました。



たすけあい心のパネルの前で

あなたの夢かなえたいプロジェクト

2016年1月23日(土)

思っているけど実行できないけれど、誰かが少しお手伝いをすれば可能になる夢を実現しようというプロジェクトです。澤村智恵子様は弘明寺近くに住んでいた頃によく通っていたお寿司屋さんに行ってみたというご希望がありました。顔見知りのヘルパーたちが移動のお手伝いをし一緒に懐かしい味を楽しむことができました。



なつかしいお寿司さんでランチ

白寿のお祝い

2016年1月20日(水)

茅野春子様は今年99歳です。身の周りの事はほとんどご自分でなさっています。週2回のデイサービスでの入浴を楽しみにされています。たすけあい心の担当が花束を持って訪問しました。



花束を抱えて

新会員紹介

移送サービス事業に従事して

嶋 和臣

移送サービス事業に従事することになって、半年ほど経ちました。

5年ほど前、サラリーマン退職後のあり余る時間の活用として始めたのが、社会福祉協議会での送迎ボランティア活動でした。高齢者や障害者の方々に病院や福祉施設などに送迎する活動です。自家用車や社会福祉協議会の福祉車両を使用しての送迎で、多くのことを学びました。港南区周辺の道路に詳しくなり、講習会では福祉車両の操作や運転方法を叩きこめました。いまだに久しぶりに走る経路の確認、福祉車両の操作方法の復習などは欠かせませんが、5年間の経験がこの活動に多少の余裕ももたしてくれました。

そんな折に、たすけあい心からの誘いを受け、「移送サービス事業」のお手伝いを始めました。こちらでは送迎だけではなく病院内での介助も加わり、利用者の方との接し方や書類の作成など新たな業務も必要となり、頭のサビ落としをしているところです。

利用者の方から貴重な体験談を聞くことができること、また日常生活に規律をもたらしてくれる活動として、まことにありがたいことと感謝している日々です。



寺子屋開設



コミュニティールームここは、高齢者だけでなく子どもの居場所でもあります。好奇心旺盛な小学生達は、開店早々「ここは何するところ？」と覗きに來たり、トイレを借りに來たりしながらいつのまにか「ここ」を自分たちの居場所にしていきました。

遊ばせるだけでなく、勉強もさせたいなと思っているところに神奈川県社協から助成を頂き『寺子屋』を開設しました。教えることに経験と熱意のある二人のここのスタッフ、地域のボランティアの方々が先生役です。

小学生の姉妹とその弟君が最初の生徒でした。放課後遊びに來る子は勉強にはそっぽを向いていましたが、区役所の福祉の担当者などからの依頼が増え、塾に通う余裕のない中学生を何人も高校に送り込んできました。わがままな子どもたちに手を焼きながら、社会生活に適應できるよう、しつこく教え育ててくださった先生方には感謝です。

- 上大岡、上永谷、港南台各ターミナルから市営バスで10～20分「深田橋」下車 バス停のまん前

電話 842 - 1755

港南たすけあい心の活動状況

	7月				8月				9月			
	介	支	オ	心	介	支	オ	心	介	支	オ	心
訪問件数	61	7	3	0	68	12	6	0	64	7	6	0
利用者数	45+38	18	46	0	44+37	16	38	0	47+39	21	39	0
活動時間 (内時間外)	675 (115)	122.5 (49)	197.5 (29.5)	0 (0)	588 (102)	124.5 (61.5)	171.5 (26.5)	0 (0)	640 (144)	144 (72)	202.5 (38)	0 (0)
活動ワーカー数	37				36				39			
	10月				11月				12月			
	介	支	オ	心	介	支	オ	心	介	支	オ	心
訪問件数	61	9	5	0	65	11	6	2	50	4	5	0
利用者数	45+36	21	38	0	49+35	23	36	1	50+36	23	36	1
活動時間 (内時間外)	631 (116.5)	158 (85)	193.5 (25)	0 (0)	633 (147)	147 (81.5)	189 (31.5)	14 (14)	638.5 (143)	130 (60)	189 (36.5)	6 (6)
活動ワーカー数	39				39				38			

◆居宅介護支援利用者数（ケアマネ利用者数）（要介護人数＋要支援人数）

7月	8月	9月	10月	11月	12月
36 + 13	36 + 12	33 + 13	31 + 13	31 + 13	31+16

* 訪問件数はサービス提供責任者およびコーディネータが利用者宅を訪問した回数です。

- 登録ワーカー数 47名
 - 介護保険利用者 86名
 - 居宅介護支援利用者 46名
 - 横浜市委託事業利用者 0名
 - 障害者自立支援制度利用者 21名
 - 賛助会員 30名
- （2016年2月27日現在）
- 介……介護保険利用（要介護利用者）＋（要支援利用者）
 支……障害者居宅介護・外出介護
 オ……オレンジチケットの略
 （介護保険利用者でチケット利用者）
 心……心チケット利用（子育て支援など）
 *訪問件数はサービス提供責任者およびコーディネータが利用者宅を訪問した回数です。

▼ある日のこと、ある利用者さんに「今まで生きてきた中で一番幸せだったことは何ですか？」とお尋ねしたところ、「初任給で田舎の両親を呼び寄せて東京見物をさせてあげたことです。」というお答えが返ってきました。ご両親はもちろん大喜びされたそうです。私としては想像していなかったお答えに少し驚いたのですが、その方のお人柄に触れることができ心温まるひとときを過ごすことができました。「人に喜んでもらうのが自分の幸せ」というのは、われわれの活動にも通じるものがあり、これからも利用者さんに喜んでいただけるよう頑張っていきたいと思いました。（西ヶ谷）



匿名希望
秋山光江
中山清
高田欽夫
安齋富子



●賛助会員（敬称略）
（継続）